

令和6年4月8日(土)  
1学期始業式訓話

## Growth と Development

校長 下村 昌弘



春休みはどうだったでしょうか。3月から今日までの間、何か一つのことをなすには十分な時間があつたのではないかと。

最初に報告するが、先月末のさが桜マラソン、不肖下村は本村尚武先生のアドバイスのおかげで完走することができた。本村先生には全く及ばないタイムだが、雨の中、それもまあまあ激しい雨の中、最後まで走り切れたことに満足している。ボランティアに参加してくれた生徒の皆さん、ありがとう。

そして、ここにいる皆さん一人ひとりが、この春休みに、何か1つでもいいから、やり切ったという感覚を味わえていればいいなと思っている。

そして、今日はそれらを一旦リセットして、また一から、新しい毎日を頑張っていこう。

そこで、新年度のスタートに当たって「成長する」ということについて考えてみたい。メモの準備はいいだろうか。今日のキーワードは Growth と Development。

今を時めく若者世代の代表格は、野球界の大谷翔平選手と将棋界の藤井聡太八冠か。

大谷選手は開幕直後に、スキャンダラスな事案が持ち上がり、出ばなをくじかれた感があつたが、先週末はホームランを連発し、徐々に加速しつつある感がある。

ヒットが出なかった時期の大谷選手の表情はさえないなかったが、むしろ人間らしさがうかがえ、私は好感をもてた。

藤井八冠も昨年度は46勝8敗。負けることもあるのだなと思う人のインタビューでは、ちょっと困った面持ちで「まだまだ精進が足りません」などとコメントをしていた。

中日スポーツより  
<https://www.chunichi.co.jp/article/881625>



この大谷翔平選手と藤井聡太八冠の共通項はなんだろうか。

一言で言うとそれは誠実さではないかと思う。この二人は、ボクサータイプではない。ボクサーのように自分を極限まで追い詰めた悲壮感といったものは感じない。そしてイチロータイプでもない。かつてのイチローさんが醸し出すサムライ的な孤高感といったものでもない。

二人は、厳しい勝負の世界に身を置きながら、成長することに対して、とても誠実であり、貪欲だ。そして、ひたむきに努力を続けることができる。この姿勢が似ていると感じる。どうだろうか。

昨年度も数々の偉業を成し遂げた二人。その原動力は、単なる勝ち負けではなく「更なる高みを目指したい」という成長への欲求にあると思われる。

その特徴は、徹底的な“準備”と“振り返り”を当然のこのように重ねていることにあると思う。そしてこの“準備”と“振り返り”に、現状維持をよしとしないところから生まれる“気づき”がある。

私たちは、通常、物事を最後まで完璧にやりとげなければならないと思いがち。しかし、むしろ二人は、その途中においても、後悔や反省の気持ちを持つことが、決して悪いことではないと教えてくれているような気がする。

彼らのコメントは、常に途中経過としての一言であり、結果が出ても有頂天にならず、結果が出なくても落ち込みすぎず、次の準備に向かおうとする真摯な姿勢を感じる。

今、社会では、データ重視やAIの進展など、目まぐるしく変化する中であって、だからこそ、逆に感性や人間性を大事にしなければならないという考え方がある。

データを度外視した、大谷選手の枠に収まらないプレーや、藤井八冠のAIを超えたときえ評される、指し手の展開イメージには、人間の本来の力を信じているからこそ、生まれるパワーが宿っている気がする。

ところで、成長には、目に見えやすく直線的なGrowthと、つまずきや葛藤などを踏まえたDevelopmentがある。そこで、ニュアンスを確認するため、英英辞典を引いてみた。

Growth : when something gets bigger and develops

(何かが大きくなり、発展する時のこと)

Development: the process of growing, changing, or becoming better

(成長、変化、または、よりよくなるプロセスのこと)

Growthの説明にはDevelopmentが、Developmentの説明にはGrowthが使っており、一見どちらも似たような意味にも見えるが、Growthは「成長」、Developmentは「発達」という訳語が当てられる。この違いをイメージできるか。

私は、この2つの言葉を大学時代、発達心理学か何かの授業で学んだ記憶がある。

では問題。「身長が伸びる」は？ 「体重が増える」は？ 知恵がつくは？ 感情が芽生えるは？

これでなんとなく違いが見えてきたのではないか。成長（Growth）は量的な変化で、計測が比較的容易。体重や身長。生物学的な「増大」。そしていったんマックスを迎えれば、それはとりあえずピークを終える。

それに対し、発達（Development）は質的な変化。人間としての機能が向上していくこと。ここには測定できない微妙な変化も多く、経験や練習、訓練や教育といった、いわゆる「学び」によって徐々に変化していくもの。それがDevelopment。

つまり“量的な成長”と“質的な発展”。それがGrowthとDevelopmentの違いであり、当然、それらは異なる法則によって成り立っている。

Growthは、植物をイメージすると、光や栄養分といったいわば物質的な支援によって外見的变化が促されるもの。それに対し、Developmentは「学習・学び」によって内面的な変化が促される。

そこでSDGsという言葉。SDGsは何の略語か？ Sustainable Development Goals。ここでは量的な増大を意味するGrowthはあわない。人口も経済的な豊かさも無限に増大していくわけにはいかない。Sustainable Growth（持続可能な量的な増大）は不可能で、やはりそこでは質的な発展を意味するSustainable Development（持続可能な質的な発展）がふさわしい。



大谷選手や藤井八冠はこの意味で質的発展 Development をしていると言える。では、彼らの Development を生み出している原動力は何か。それが先に述べた、徹底した“準備”と“振り返り”だと思う。

つまずきや葛藤を経験しても、そこで感情を取り乱しすぎず、俯瞰して自分を見つめなおす。その“振り返り”の時に、新たな“気づき”が生まれる。そして次の“準備”に入るわけだ。

“気づき”という言葉も語感がいい。“発見”ではなく“気づき”。“気づき”という言葉には、もともとそうした問題意識が内在されているといった感じがある。

さて、話をまとめる。あなたが目指しているものはGrowthか、Developmentか。

そんな話を英語の先生としていたら、progress という言葉もありますよ、と教わった。

Progress は“進歩”。なるほどいい言葉だ。Development に向けて、一步一步進む感がある。

冒頭、さが桜マラソンを完走したと報告した。私がフルマラソンに要する時間は約 4 時間。正直非常に長い。でもショートカットはできない。一步一步進むしかない。

その途中の苦しさで達成した後の喜び。それがフルマラソンであり、私にとっては一つの修行だ。ゴールするまでは「なぜ高い金を払ってまでエントリーしたのだろう」「もうこのレースでフルマラソンは終わりにしよう」などという思いが何度も頭をよぎる。でもいまさらそんなことを考えても仕方がないから、一步一步踏み出すしかない。



ゴールした後は、痙攣する足を引きずりながら、「もう走らなくていいのだ」という安堵感と「実はもっとうまく走れたのではないか」という振り返りの感覚が湧く。そして今また来年に向けてぼちぼち走り始めたところ。

皆さんも、“振り返り”と“気づき”を大切にしながら、Development を意識して、一步一步、将来への“準備”を進めてほしい。

さあ、令和 6 年度 1 学期のスタートだ。頑張っていこう。

